



DE Webinar (第2回) 「社会正義と評価」

2019 / 6 / 27 (木) 18:30-20:10

今田 克司

(最近の楽しみ：帰宅後に録画しておいた「空港ピアノ・駅ピアノ」を観ること。
みなさんの最近の楽しみはなんですか?)

もうすぐ開始です。

本日の流れ

- 18:30-18:40 開始、機械の設定、著作権等
- 18:40-19:30 今田しゃべる (もう少ししゃべっちゃうかも)
- 19:30-20:00 質疑応答&コメントタイム
- 20:00-20:10 感想のシェア (ズームのチャットを使って)
- 20:10 終了

ズームでのWebinar のやり方 (第1回と同じ)



- 私の声は無理なく聞こえますか？
- みなさんはミュートして聞いてください。ミュート確認してください。
- スクリーンショットで画面見えていますか？
- チャットの画面開いてみましょう。私の書き込み見えますか？
- 「手をあげる」機能使ってみましょう。
- ミュート解除して、発声してみましょう。



注意事項・到達目標

(第1回の前にメールで流したものの)

- これは、私が「勝手に熱くしゃべる」ことを目的としています。対面ではないので顔色もうかがえないですし、場や空気を読むといったこともしません。まったく不親切です。
 - 私が一方的にしゃべるというのはつまり日本語と英語がチャンポンになるということです。わかりにくくなります。まったく不親切です。
 - DE研修生をメインの参加者として(その共通理解があるという前提の上で)しゃべります。DE参加者以外も大歓迎です(声がけてます)が、同じ前提がないということへの気配りはあまりしません(たぶん)。まったく不親切です。
 - そんなこんなで勝手にしゃべる私の勝手な到達目標は、参加者が次のような状態になることです。
 - なんだかよくわからないけど面白い。ワクワクする。
 - 評価の奥深さをチラ見できた感じがする。評価の可能性を感じて、もっと知りたいと思うようになる。
 - 今の自分にとって、評価の技術ではなく、方法ではなく、種類ではなく、評価の潮流を支える思想のありかを理解することが、もしかしたら役に立つことなのかもしれないと思う。
- とはいえ、こういった到達点に参加者が至れるかはまったくわかりません。そのための仕掛けや工夫もしません。まったく不親切です。

特に今回は英語が多いです！



資料の著作権について (第1回と同じ)

本プレゼンは、基本的に、



Copyright: All Rights Reserved

でなく、



Copyleft: All Rights Reversed

とする。

としたいところですが、基本的に二次資料が多いので、それらは©です。ページごとに左下に表示します。

できれば、知的財産（とこれと言えるかどうかは別にして）は、共有財産としていきたいですね。

DE研修でを使用したスライドの場合は、頭に、以下表示します。
「おさらいスライド」または「おさらいスライド（一部修正）」
（第1回と同じ）



出発点：めまぐるしく状況が変化し、複雑化する今日、評価はいかにあるべきか...

状況把握
適応
変革志向
学習





では、はじまりははじまりの1

きょうの結論(予告でアップデートしたとおり)

第1回から第2回へのつなぎ: MQPは Blue Marble Evaluation で世界を救おうと思っている

第2回: 多くの評価者が合意した正義ある社会とは、Equitable な社会。それを実現するために、評価者コミュニティは評価を伝播しようとしている。評価でそんなことが可能だなんて思っている人がウルトラ・マイノリティの世の中において。。。



では、はじまりはじまりの2

せっかく私の勝手な企画におつきあいくださっているみなさんには申し訳ないと思いつつ、今回はみなさんを混乱させる構成になっています。

第一部で「そっちの方向」に話を引っ張り、
第二部で第一部を裏切る内容を出し、
第三部で「でもやっぱり」、「え？結局どういうこと？」という終わり方

まあ、弁証法的だと思って勘弁してください。。。



第一部

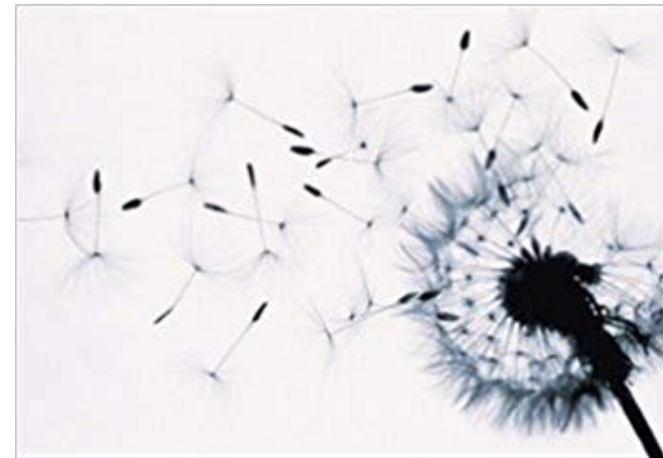
正義ある世界を目指して (そこで、評価はどんな役割を果たすのか)

先週6/19のWebinar「複雑性と評価」参加者の感想のひとつ

プロジェクト化された世界ではなく、複雑系の世界にいるからこそ、小さな地域の小さな試行錯誤が世界と繋がっていくかもしれない(変革＝正義に寄与していけるかもしれない)希望がある、それを導く評価の力が大切と感じました。



GETTING TO MAYBE: THIS BOOK IS FOR THOSE WHO ARE NOT HAPPY WITH THE WAY THINGS ARE AND WOULD LIKE TO MAKE A DIFFERENCE. THIS BOOK IS FOR ORDINARY PEOPLE WHO WANT TO MAKE CONNECTIONS THAT WILL CREATE EXTRAORDINARY OUTCOMES. THIS IS A BOOK ABOUT MAKING THE IMPOSSIBLE HAPPEN **HOW THE WORLD IS CHANGED.**



GETTING TO MAYBE
HOW THE WORLD IS CHANGED

フランク・ウェストリー
アレン・ライノーマン
マイケル・ライノ・パトソン
エリック・ヤング (著)
東洋館 (訳)

誰が世界を変えるのか
ソーシャルイノベーションはここから始まる

タンポポは思いがけない場所で咲く——
自分にできるたったひとつの方法で、
可能性を信じて行動した人々の物語。

東洋館

前回のおさらい
Getting to Maybe だからこそ、

求められているのは謙虚さ
同時に求められているのは信じる力



評価の目的（主な用途）

— 目的によって評価のアプローチは異なる—

説明責任の確保

事業の開発・改善

組織学習、意思決定過程の強化

知識創造

社会変革、社会正義の実現

社会の改善



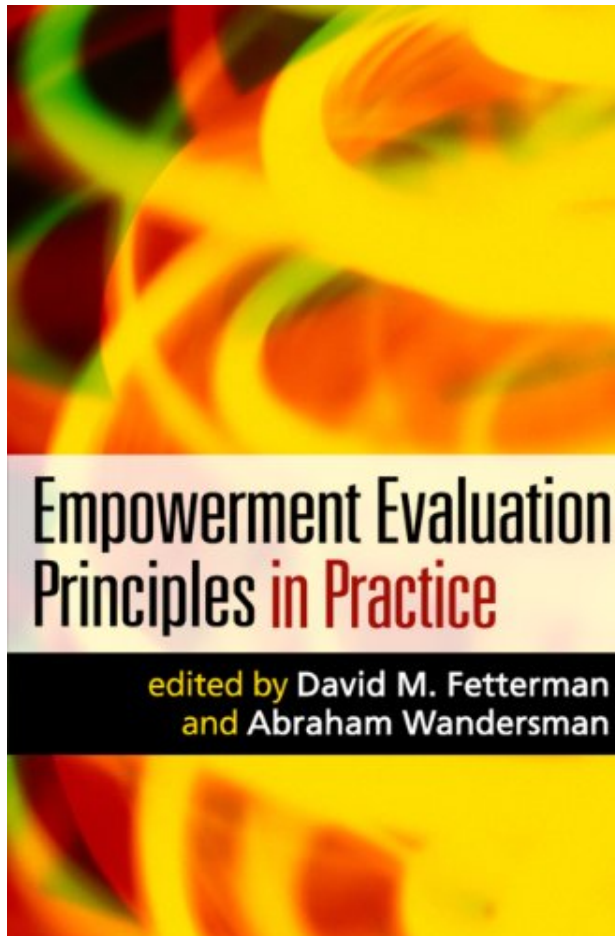
これってなんのこと？

社会変革、社会正義の実現

社会の改善



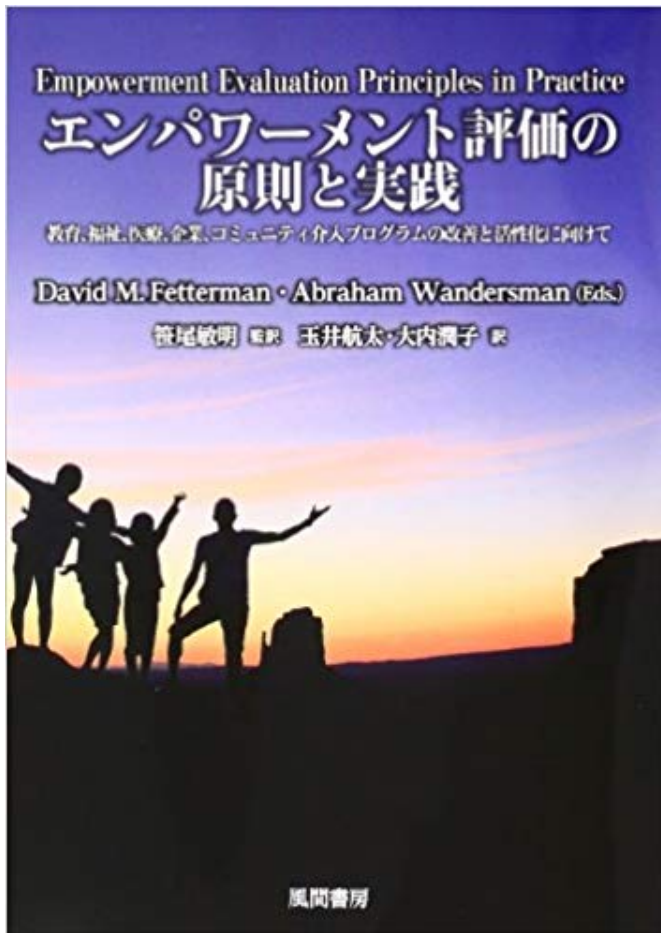
例えば(1):エンパワーメント評価



Evaluation “by the people and for the people.”



例えば(1):エンパワーメント評価



10の原則

1. 改善
2. コミュニティ・オーナーシップ
3. 包摂
4. 民主的参加
5. 社会正義
6. コミュニティの知見
7. エビデンスに基づいた戦略
8. キャパシティ構築
9. 組織の学び
10. 説明責任

(p.40より一部改変)



例えば(2): 我らがケイト

Developmental Evaluation Institute



Developmental Evaluation
Institute Training
Raglan, New Zealand
February 2019

Kataraina
Pipi

Kate
McKegg

Andy Rafael
Johnson

Nora
Murphy
Johnson

Nan
Weihipeihana





DE for Social Justice Purpose

Illuminates, informs and supports what is being developed and how it addresses the root causes of systemic inequities, identifying the implications and consequences of what is being developed.



These principles guide the way we work with each other, partners, and communities.

Social Justice (社会正義)

Work vigorously towards social justice by shining the light on systems as they actually are, troubling power dynamics, creating meaningful opportunities for people to contribute, be heard, experience wellbeing, and shape the decisions that impact them.

Undivided Selves (分割・細分化されていない個人)

Embrace our humanity by honoring and engaging the whole person, including hearts, minds, bodies, and spirits, as well as our stories, histories, cultures, and values.

Connectedness (つながりの醸成)

Make explicit and nurture our connections to each other, the air, land, and sea.



Community Facing (コミュニティに向かっている)

Recognize and create space for the deep wisdom and important ways of knowing that exist in community about themselves, their lives, and their values, irrespective of their titles, training, awards, or social/political station and power.

Artistic Expression (芸術的表現)

Create opportunities to express our hopes, fears, and values and to critique the world through the arts, with humor, compassion, inspiration, and love.

Loving Relationships (愛情豊かな関係性)

Support loving relationships characterized by nurturing one's own and others' spiritual growth, revealed through acts of care, respect, knowing, and assuming responsibility.

Generosity of Spirit (寛容さ)

Relate to ourselves and each other with generosity, empathy, and a kind heart. Meeting people where they are at without judgment, creating opportunities for reconciliation, healing, and forgiveness.

例えば(3): 我々がマイケル Blue Marble Evaluation





例えば(3): 我らがマイケル Blue Marble Evaluation

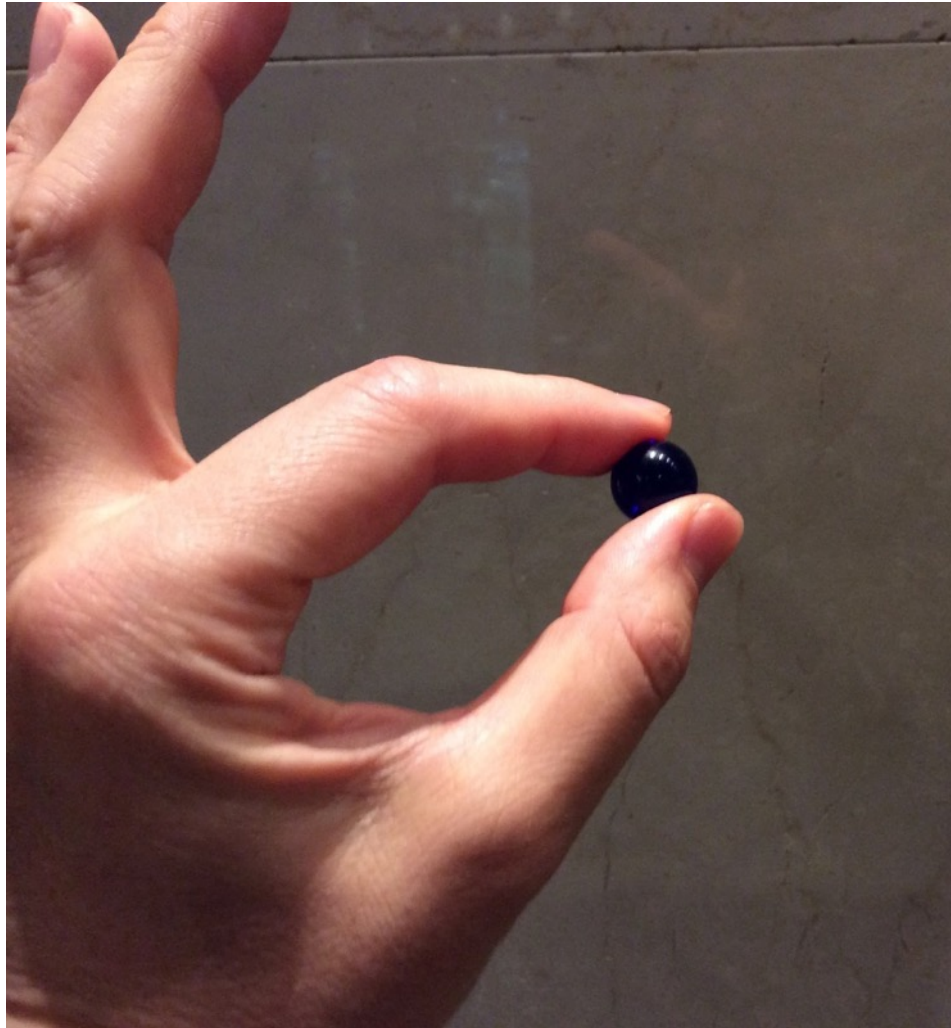
WHY BLUE MARBLE EVALUATION?

Global challenges like climate change, massive cross-border movement of displaced persons, virulent super-viruses and contagious diseases that threaten world health, dying oceans, global terrorism, global food insecurity, global economic interdependence, and multinational capitalism, to name but a few examples, operate beyond national borders and regional or sectoral domains. Technology knows no national or agency boundaries. Moreover, these global systems and challenges are interconnected and dynamic. Global innovators and global systems change initiatives are beginning to think and act from the perspective of a complex, dynamic, and interconnected world system.

Evaluators need special perspectives and competences to engage and evaluate these global change efforts, to monitor, improve, help develop, and ultimately judge the effectiveness, efficiency, relevance, and sustainability of these global change efforts.

<https://www.utilization-focusedevaluation.org/blue-marble-evaluation>

We are Blue Marble Evaluators



例えば(4) : SDGs Transformation Forum



transformationsforum.net

tf **SDG**
Transformations Forum
...accelerating our pathways to flourishing futures

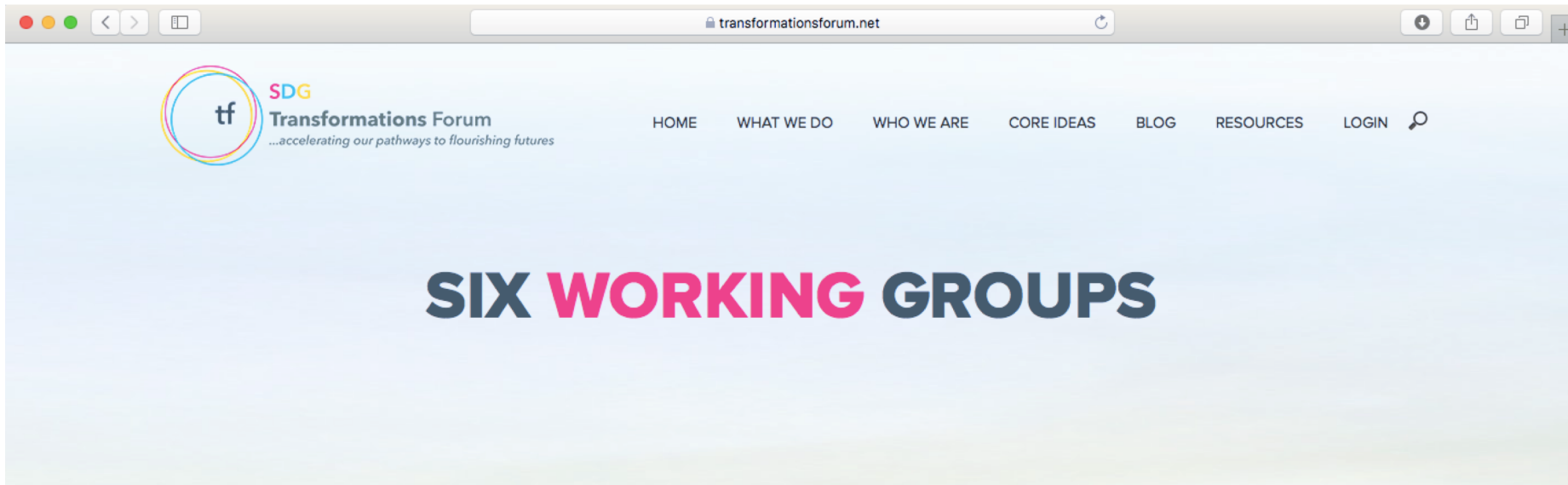
[HOME](#) [WHAT WE DO](#) [WHO WE ARE](#) [CORE IDEAS](#) [BLOG](#) [RESOURCES](#) [LOGIN](#)

MANY PRESSING CHALLENGES

REQUIRE TRANSFORMATION, RATHER THAN INCREMENTAL CHANGE & TRADE OFFS...

See A 14-Minute Introduction To The Forum

例えば(4) : SDGs Transformation Forum



EVALUATION FOR TRANSFORMATION

Objective 1: To use the transformative power of evaluative practice to understand and help enable the changes sought towards rapid achievement of the SDGs and other relevant international goals. We are especially interested in understanding the evaluation of large systems change (see also [here](#)) and [global systems change](#) (see also [here](#)) as a means to energize, stimulate and open up new pathways for learning, acting and reflecting.



例えば(4) : SDGs Transformation Forum

Stewards

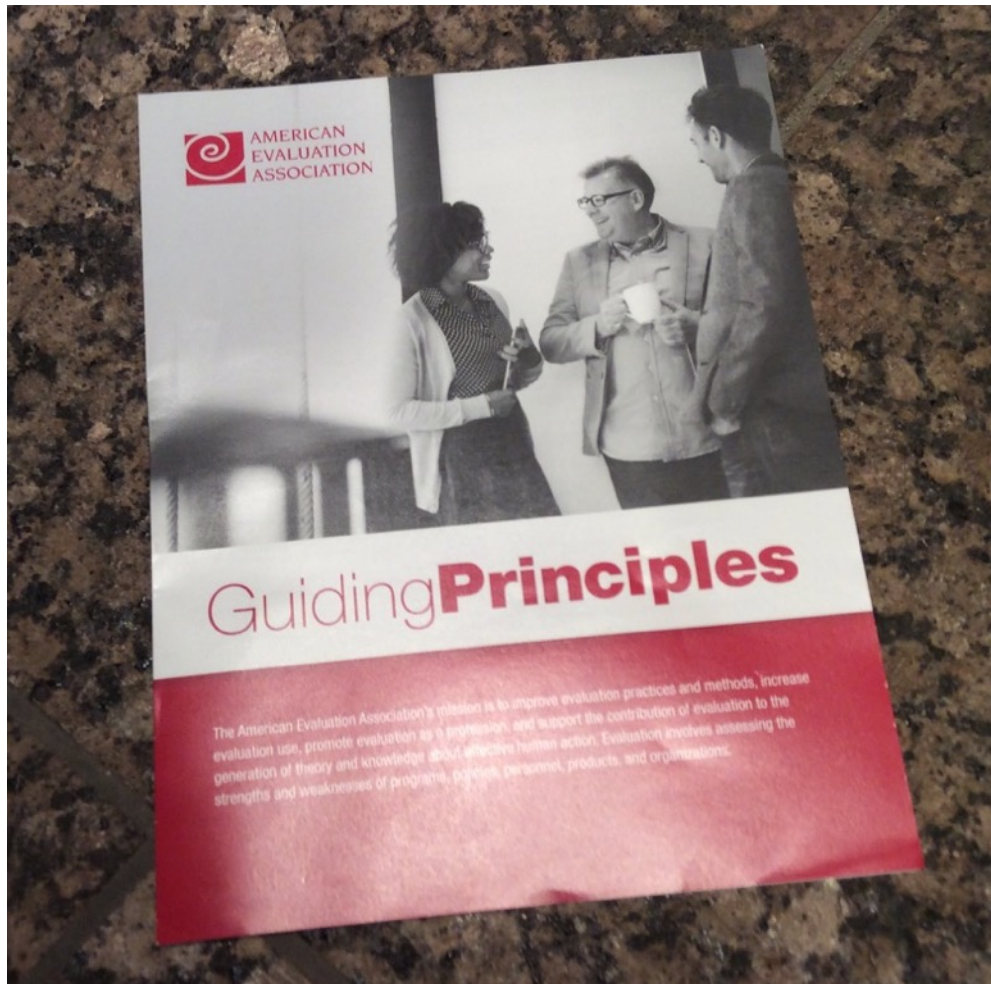
- Lead Steward: Zenda Ofir, **Evaluation for Development & Stellenbosch University**, zenda@zendaofir.com
- Glenn Page – **SustainaMetrix** gpage@sustainamatrix.com
- Beris Gwynne – **Incitare**
- Michael Quinn Patton – **Utilization-Focused Evaluation and the Blue Marble Initiative**
- Beverley Searle – **Centre for Environmental Change and Human Resilience and University of Dundee**

マイケルも名を連ねているこの作業部会のリーダーは、Zenda Ofir。筆者も知り合いだが、日本にも何度か招かれて評価関連のセミナーもやっている人物だ。作業部会の大きな目的には以下がある。

「評価実践に潜在する変革のポテンシャルを最大限発揮すること：評価の力を活用することによって、SDGs（持続可能な開発目標）などの国際合意達成に向けた必要な変化を理解し、変化を引き起こすことができる。特に、大きなシステムの変化、グローバル・システムへの影響を考えることによって、学び、行動、振り返りの経路を活性化し、刺激し、さらに新たな経路を開くことができる。」



例えば(5) : AEA Guiding Principles



2018年、会員有志の
ワーキンググループによ
り、会員（7000人？）
の広範なコンサルテー
ションを経て改訂



例えば(5) : AEA Guiding Principles

E. Common Good and Equity: Evaluators strive to contribute to the common good and advancement of an equitable and just society.

E1. Recognize and balance the interests of the client, other stakeholders, and the common good while also protecting the integrity of the evaluation.

E2. Identify and make efforts to address the evaluation's potential threats to the common good especially when specific stakeholder interests conflict with the goals of a democratic, equitable, and just society.

E3. Identify and make efforts to address the evaluation's potential risks of exacerbating historic disadvantage or inequity.

E4. Promote transparency and active sharing of data and findings with the goal of equitable access to information in forms that respect people and honor promises of confidentiality.

E5. Mitigate the bias and potential power imbalances that can occur as a result of the evaluation's context. Self-assess one's own privilege and positioning within that context.



第二部

正義は誰がいかに規定するのか

第一部の話は素晴らしい。けれど。。。。



正義の押し売り？

今回のWebinar の参加申し込みのコメントより

「社会正義」に関しては、正義を規定するのは誰なのか？が関心があります。社会課題に対して解決方法や解決後の姿など、主体によって選択が異なる事が多々あります。時にその選択は、一方からすると正義とかけ離れたものと感じる事があると思います。世の多くの課題は、「正義」VS「正義」だと感じています。社会正義とは何か？誰が社会正義を規定するのか？評価が、正義線戦争の停滞ではなく、課題解決の前進に寄与できるか？？など関心があります。

結局は「君は君の正義を貫け、私は私の正義を貫く」になるのではないか？



正義の押し売り？

要するに、評価者は、特定の価値観に依って立ち、それを世の中に説いてまわる宣教師になれ、ということなのか。

つまり、それが平等であれ包摂であれSDGsであれ、同様の価値観をもたぬ人々とは相容れない「わかりあえる」人々のコミュニティを形成し、その中で呼吸し、その輪を広げていこうということなのか。

立場の違う人から見れば、「それはあなたの勝手にしょ」

それは、つまるところ、現代の「分断」を助長することにつながるのではないか。。。



正義の押し売りを避けよ？

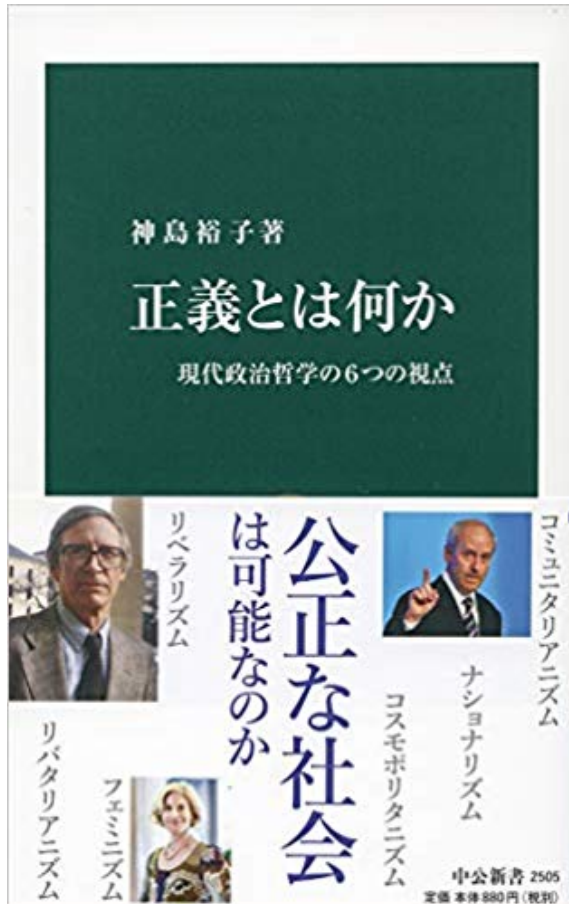
結局は「君は君の正義を貫け、私は私の正義を貫く」になるのではないか。

に対し、ロールズの正義論を中心に、リベラリズム、リバタリアニズム、コミュニタリアニズム、フェミニズム、コスモポリタニズム、ナショナリズムという現代正義論の六つの立場が競合している様子を描いてきました」 (p.254)

で？

民主主義？

結局は「イズム」の競合のなかで自分の「イズム」を取ること？



神島裕子『正義とは何か』
(中公新書、2018年)



正義の押し売りを避けよ

であれば、評価者は、自分の「イズム」を意識し、それを押し付けることを避けなければならないという結論になる！？



第三部

評価の二枚腰

「二枚腰」

相撲や柔道で、一度腰が折れたようでも砕けずに立ち直る粘り強い腰のこと。また、そうした腰の持ち主のこと。(weblio辞書)



一枚目／一段目



The question is not whether we should take sides

To have values or not to have values: the question is always with us. When sociologists undertake to study problems that have relevance to the world we live in, they find themselves caught in a crossfire. Some urge them not to take sides, to be neutral and do research that is technically correct and value free. Others tell them their work is shallow and useless if it does not express a deep commitment to a value position.

This dilemma, which seems so painful to so many, actually does not exist...

The question is not whether we should take sides, since we inevitably will, but rather whose side are we on?
(Howard Becker, 1967, p. 239).

中立なんてないんだから、誰の側につくのか意識せよ。



ということとは

そうか、ということとは評価者も特定の「イズム」を選択して生きていけということか。もちろん、外部評価ではクライアントの意向が大きいですが、それに向き合う評価者は、自分自身の価値観を意識しないといけな、それが仕事に影響するのだから。

その世界では、We don't agree with you. という人々もいるでしょう。でもそれは仕方ない。相容れないのだから。説得によってできるだけこちらの世界に近づいてもらうしかない。

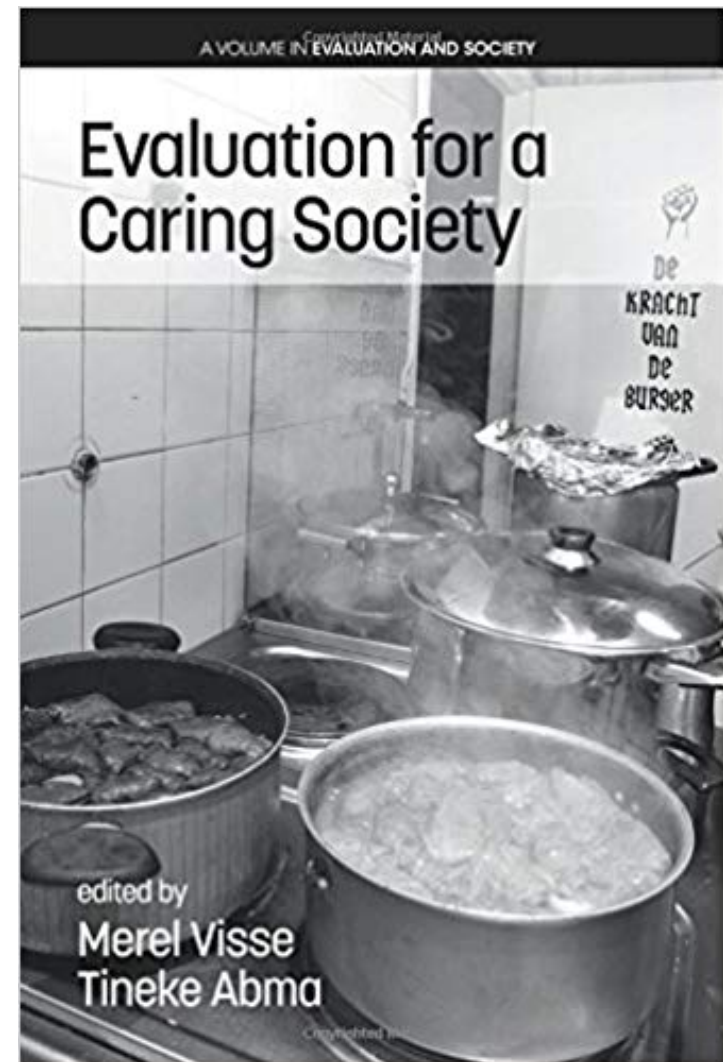
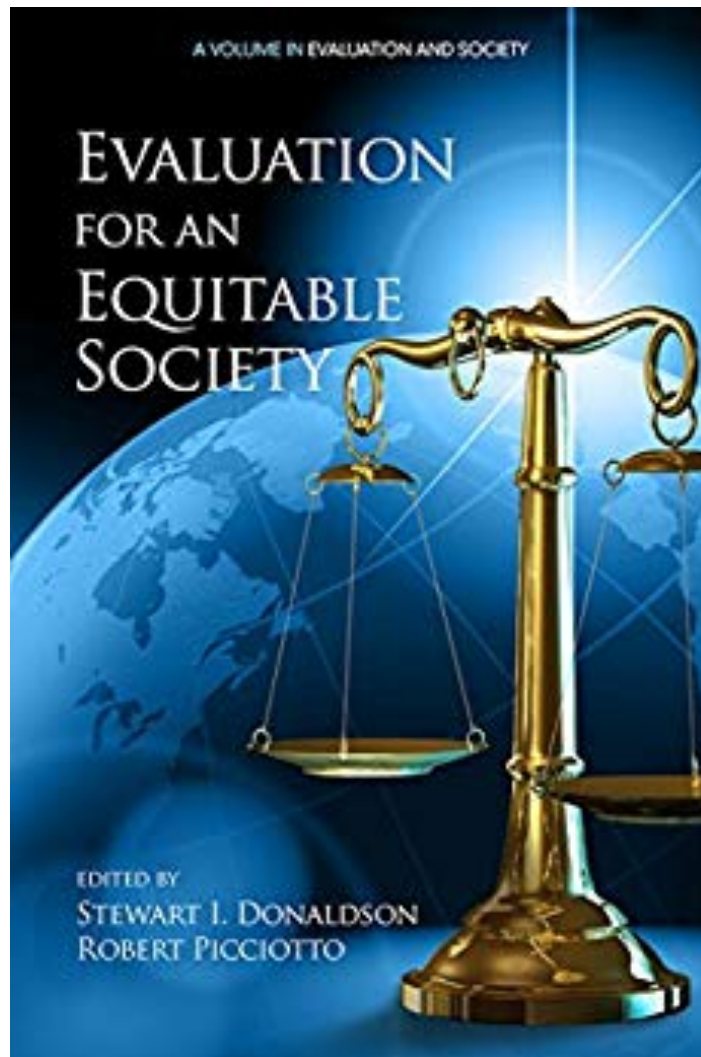
あるいは、評価者は、自分の「イズム」を意識し、それを押し付けることを避けなければならない、と考える人もいるだろう。

どちらを選ぶかは評価者のスタンスによることになる。



二枚目／二段目

二枚目があるんです。これを私に教えてくれたのは、Jennifer Greene。





Jennifer Greene (ジェニファー・グリーン)

<https://education.illinois.edu/faculty/jennifer-greene>

イリノイ大学教育学の教授。評価の理論研究や方法論の第一人者として知られる。主著に『Mixed Methods in Social Inquiry』(Jossey-Bass, 2007年)など。評価の価値中立性に関する論文や著作が多く、**評価者が全体として特定の価値を信奉・唱導するのではなく、事業や取り組みによって暗黙のうちに推進されている価値を明示化することに評価の役割があると説く。**

『DE引き出し集』登場人物紹介より
(太字追加)



Theorists' Theories of Evaluation: A Conversation with Jennifer Greene Michele Tarsilla (2010)

GREENE: In my opinion, the active choice for evaluation practitioners is usually not which values to promote in their work. **The active, conscious choice is whose questions to address in this evaluation.** Values do accompany these choices but choices do not seem to be consciously about values. Rather they are more consciously about evaluation purpose, audience, and key questions to answer.

評価者の価値観を評価の作業で推進していくのではなく、**誰の関心事を評価で答えようとするのが大事。**評価者の選択を決めるのは、価値観ではなく、評価の目的、「誰のために？」の質問に答えること。

TARSILLA: Jennifer, I particularly like **your call to evaluators for “unmasking” both the influences and value stances which underlie their work** but are too often overshadowed by the adopted methodology. You say: “It is time for evaluators to explicitly state the value commitments, programmatic assumptions, and political stances that underlie [your] chosen methodology.”

評価者が**自分の仮面をはぎとって**自身の価値観をあからさまにしないとイケないということですね。



待てよ。。。。



再掲 1

Social Justice (社会正義)

Work vigorously towards social justice by shining the light on systems as they actually are, troubling power dynamics, creating meaningful opportunities for people to contribute, be heard, experience wellbeing, and shape the decisions that impact them.

DE for Social Justice Purpose

Illuminates, informs and supports what is being developed and how it addresses the root causes of systemic inequities, identifying the implications and consequences of what is being developed.



つまり

DEIの Social Justice の定義の一部には、「この立場を取れ」とは書いていない。書いてあるのは、「光を当てる」こと、相手（評価クライアント？ほかのステークホルダー？）に「気づかせる」こと

- Shin(e) the light on systems as they actually are
- Illuminates, informs and supports what is being developed
- Identify the implications and consequences of what is being developed.

以上は評価対象について。そしてそこでは評価者自身も仮面をはぎとらなければならない。



**これこそが二枚目／二段目の真価。
そして評価の価値、評価にとっての
社会正義**

でもじつはこれで終わりではない。



再掲 2

Social Justice (社会正義)

Work vigorously towards social justice by shining the light on systems as they actually are, troubling power dynamics, creating meaningful opportunities for people to contribute, be heard, experience wellbeing, and shape the decisions that impact them.

DE for Social Justice Purpose

Illuminates, informs and supports what is being developed and how it addresses the root causes of systemic inequities, identifying the implications and consequences of what is being developed.



こっちはなんだ？ 一枚目／一段目にもどる

- Creat(e) meaningful opportunities for people to contribute, be heard, experience wellbeing, and shape the decisions that impact them
- Addresses the root causes of systemic inequities

Democratic Evaluation という評価の伝統がある。Jennifer Greene の解説は、

- すべてのステークホルダーの価値観や関心事を包摂するもの。
- 民主的かつ公平な手続きによって評価の知識を生成するもの。



けれど、それは同時に、

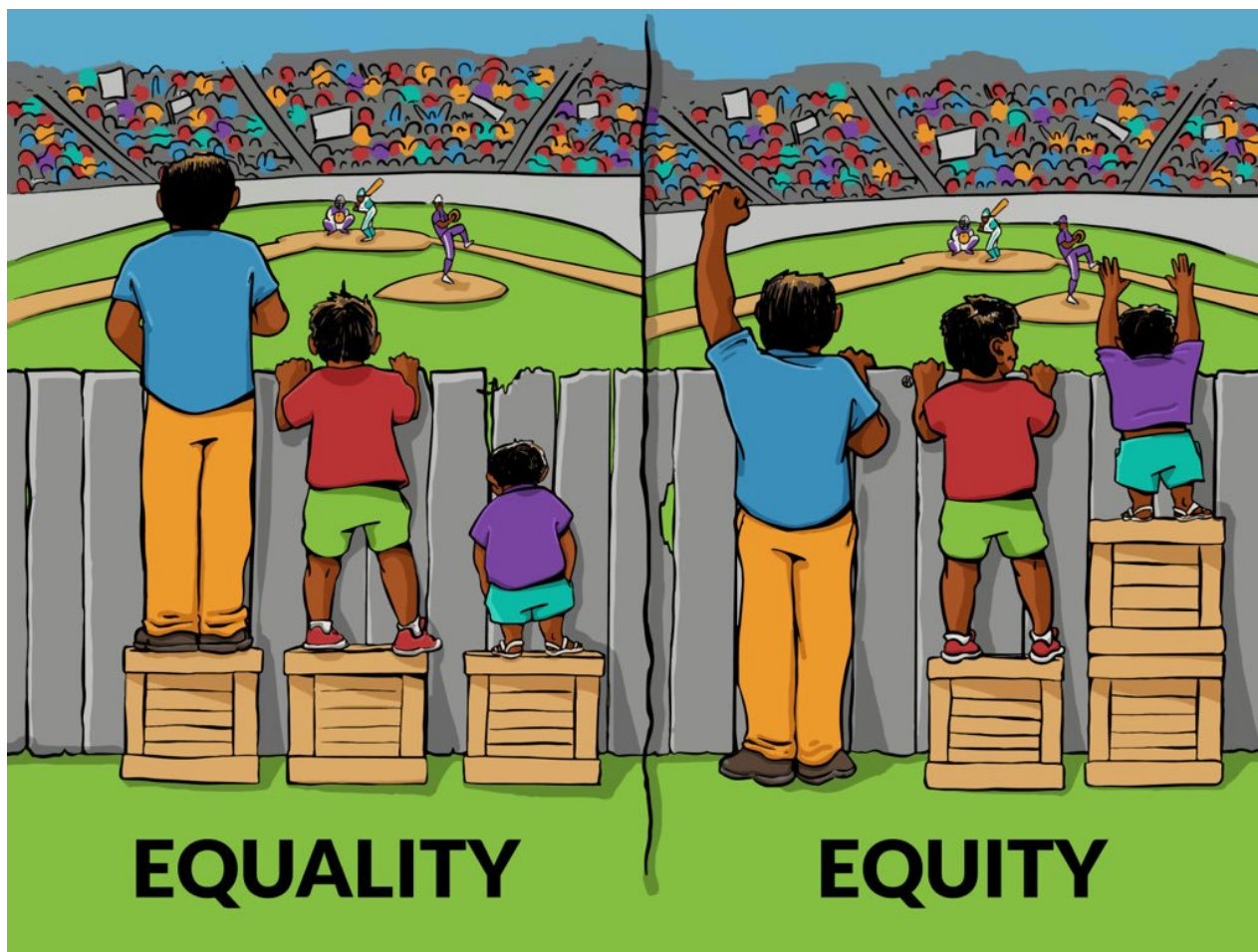
- 価値の相対主義を採用するのではなく、inclusion（包摂）と equity（公平）を優先させるということ。

Helen Simons and Jennifer Greene, “Democratic Evaluation and Care Ethics, in Visse and Abma (eds), 2018, *Evaluation for a Caring Society*, Information Age Publishing, Inc. p.87, p.90)



Equality と Equity

(見たことある人いると思います)





だから

再掲: AEA Guiding Principles

E. Common Good and Equity: Evaluators strive to contribute to the common good and advancement of an equitable and just society.

E1. Recognize and balance the interests of the client, other stakeholders, and the common good while also protecting the integrity of the evaluation.

E2. Identify and make efforts to address the evaluation's potential threats to the common good especially when specific stakeholder interests conflict with the goals of a democratic, equitable, and just society.

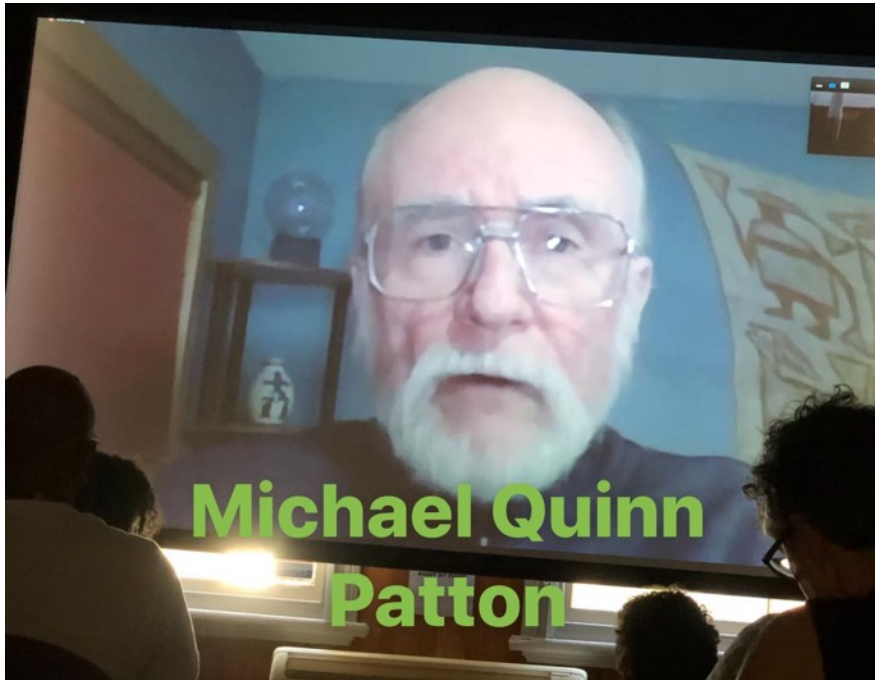
E3. Identify and make efforts to address the evaluation's potential risks of exacerbating historic disadvantage or inequity.

E4. Promote transparency and active sharing of data and findings with the goal of equitable access to information in forms that respect people and honor promises of confidentiality.

E5. Mitigate the bias and potential power imbalances that can occur as a result of the evaluation's context. Self-assess one's own privilege and positioning within that context.



そして二枚目／二段目にもつづきが。。。。



2月のDEI研修に登場したマイケルは、この話をした

アーレントの「悪の凡庸 (the banality of evil) 」*を反転させて、Elizabeth Minnich が、The Evil of Banality: On the Life and Death Importance of Thinking (Rowman & Littlefield, 2017) を書いた。これにマイケルは書評を書いた。

Michael Quinn Patton,
On the Life and Death Importance of Thinking, American Journal of Evaluation, 2019 Vo. 40(I), 137-146

*ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン—悪の陳腐さについての報告』



そして二枚目／二段目にもつづきが。。。。

マイケルは、Banality of Evaluation があるという。
Anything can be done thoughtlesslyだと。The banality of goodness というMinnich のフレーズに大きな知的刺激を受けたという。

つまり、悪いこと良いことの隔てなく、思考停止は起こる。
思考停止が起きていても仕事はできる。評価の仕事もできる。が、Minnich は、まさにアーレントがしたように、その危険性を現代史（ナチズム、ルワンダの大虐殺）をひもといて教えるという。

現代の危険は、思考をやめてしまうこと。。。思考をやめても生きていける時代になったということ。。。。



そして二枚目／二段目にもつづきが。。。。

マイケルは警鐘を鳴らす。そういう時代だからこそ、評価者は、思考を実践し奨励しなければいけない。事実を目を向けさせなければならない。事実の構造をあからさまにしなければならない。

そう、思い出した人、そうです。評価的思考 Evaluative Thinking の話に戻っていきます。。。。



きょうの結論の改変

＜一枚目／一段目＞

多くの評価者が合意した正義ある社会とは、Equitable な社会。それを実現するために、評価者コミュニティは評価を伝播しようとしている。評価でそんなことが可能だなんて思っている人がウルトラ・マイノリティの世の中において。。。

＜二枚目／二段目＞

評価は、様々な「イズム」の足元に光を当て、その思想の根っこ、思考経路、組み立て、現実のあり様を白日のもとにさらす。そのうえで、評価相手がどんな「イズム」を意識的に選択するかは、評価者にはコントロールできない。けれど、光の当て方で、ある方向に仕向けることはできるし、やって構わない（むしろやるべき）。今の時代、評価者がそれを率先してやらなければいけなくなっている。

Webinar第一回の最後の方にあったもの

「事実の力を信じよう。評価者は、事実（ひとつではない）を差し出す者、事実（ひとつではない）に気づかせる者という自覚をもとう」



おまけ



DE人物万華鏡とDE引き出し集

- 『DE人物万華鏡』の記事がほぼ揃いました。
<https://www.csonj.org/interview>
- DEのあれこれについてまとめた『DE引き出し集』を鋭意作成中。
もう来月頭にはお披露目できると思いますので、どうぞお楽しみに。

CSOネットワーク インパクト・マネジメント・ラボ



■ 設立背景

社会的インパクト評価イニシアチブ（SIMI：「社会的インパクト・マネジメント」を推進するマルチステークホルダーのプラットフォーム）の取り組みを支え、社会的インパクト・マネジメントの概念や実践を普及するアクセラレーター（加速役）となるために設立。

■ 取り組み内容

1. 調査研究

これまでの調査研究活動や海外とのネットワーク、国内外における社会的インパクト・マネジメントや評価に関するナレッジの蓄積をもとに、調査研究やツール開発、事例の収集などを幅広くおこなう



2. コンサルティング

企業やNPO/NGO、行政などに対して、社会的インパクト・マネジメントや評価の伴走型の支援（個別コンサルティング）をおこなう



3. 人材育成

社会的インパクト・マネジメントや発展的評価（Developmental Evaluation）に関するセミナー・研修などをおこない、担い手を増やすための人材育成をおこなう





ありがとうございました!

katsuji@csonj.org